

## 面接試験

## やってはいけない7つの立ち居振る舞い

面接官に悪い印象を与えやすい立ち居振る舞いがあります。無意識の場合もありますから、次の例のような行動が自分にないか確認しましょう。心当たりがあれば、試験までに直すように努力しましょう。

## ① 目を見て話さない

目を見て話すのはコミュニケーションの基本です。面接官と目を合わせないのは印象がよくありません。初対面の面接官と向き合うのは恥ずかしいかもしれませんが、話すときはきちんと目を見て話すようにしましょう。

## ② 手遊びをする

手遊びをする様子は、面接官から見るとかなり目立ちます。手を揉んだり、指をいじったり、体を触ったりすることです。緊張していつい何気なくやってしまっているのかもしれませんが、露骨に出さない方がよいでしょう。

## ③ 仁王立ちをする

足を開いて立っている様子は、威圧的に感じます。立っているときは足を閉じた状態にしましょう。

## ④ 椅子の背にもたれる

椅子の背にもたれていると、意欲や熱意が無いと誤解されます。何を話しても説得力が弱くなります。

## ⑤ 露骨な前かがみになる

この姿勢も威圧的に感じるため控えた方がいいでしょう。椅子に座るときは、背筋を真っ直ぐに伸ばした状態が理想です。

## ⑥ 足を小刻みに動かす

落ち着きがないと思われます。特に印象の悪い癖ですから、必ず直すようにしましょう。

## ⑦ 必要以上に髪の毛を触る

髪の毛を触る癖は、自分では普通だと思っていても、面接官には良い印象を与えません。

## 意欲と将来性

入社への強い **意欲** を示すには、志望動機が重要です。

## 【■志望動機のポイント】

自分が話せそうなことを選んで、練習してみましょう。

- 自分は〇〇に興味があり、もっと学ぶために、この仕事がしたい。
- 自分は過去にこんな経験をしてきた。その経験を活かして仕事をしたい。
- 自分はこんな生き方をしたいと考えている。だからこの仕事がしたい。

※志望動機の強さを伝えるには、志望理由を明確かつ具体的にすることが大切です。これまでの経験を踏まえて、自分の生き方や考え方をアピールすると説得力が出ます。

## 将来性

自分が **将来性** を備えていることを、これまでにしてきた努力を踏まえてアピールしましょう。

## 【■将来性のアピール例】

(話せそうなのはどれですか?)

- 専門スキルや資格の取得  
専門的な能力を身につけ、各種資格を取得するまでに努力してきたこと。
- これまでに学び、成長してきたこと  
苦労したことや、失敗から学んだことなど、具体的な経験談。
- 将来の目標、キャリアプラン  
入社後の目標を具体的に掲げて、努力・勉強し続ける姿勢。

## — 採用選考が始まります —

面接における質問では、まず入社への **意欲** が測られます。なぜこの企業を選び応募してきたのかを、面接官は志望動機などから判断します。

しかし、**意欲**があっても、入社後の **将来性** がなければ、その会社にとっては必要な人物ではないと会社は判断します。

面接官は、入社への **意欲** を測るとともに、その人の **将来性** を探ろうとします。面接官が最終的に知りたいのはこの2点です。

楽を求めたら、苦しみしか待っていない。

—— 野村 克也 (元プロ野球選手・元監督〈ヤクルト・阪神・楽天〉) ——